

北斗通信

エバーオンワード(限りなき前進)

藤岡市立北中学校校長室通信

平成22年6月30日(水)

NO20(通算82)



今日の道標^{みちしるべ}2 標語カレンダーから

11日 「喜んで出す金銭は、仲間を引き連れて戻ってくる」 支払うべき金銭は、すばやく支払う。その金銭は生きて働き、巡りめぐってわが身に返ってくる。

12日 「『親の子』になる、それが家庭を築く基本」 我が子の反抗に手を焼いた時、自分がその年齢だったころの親の心を思い起こそう。まず子どもとして、親の愛に目覚めよう。

13日 「一日、一回でよい」 陽が昇り、陽が沈む。このリズムに沿った何か一つでも続けることで、動かぬ自信が培^{つちか}われる。

14日 「便が出るしあわせ」 あたりまえがいかに幸せか。何気ない出来事も、健康に支えられた貴い人生のひとコマだ。



15日 「苦しい時に、本当の力が磨かれる」 辛い地点を越えてこそ、脚力が鍛えられる。途中で投げ出さないで辛抱強く研究・工夫を重ねてこそ、実力がつく。

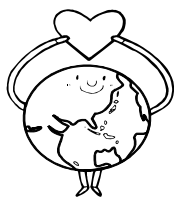
16日 「朝は直感が冴える」 夜は考え事をやめ、早く眠りにつこう。大事なことは、良い知恵が働く、朝決めよう。

17日 「他人に求める心は、己が到らぬ反映」 他人の欠点や短所は、己の姿である。自らを修正すれば、人間関係は好転し始める。

18日 「最後は当人が決めねばならない」 自分の代理を立てることはできない。人任せではなく、自らの手で運命を引き寄せよう。

19日 「水道代は払っても、空気代は忘れている」 太陽、大地、海。動物や虫たち。清冽な真水……。地球は生命の奇跡のゆりかご。

20日 「子どもは家庭の光源、笑いの泉」 乳飲み子のほほえみ、走り回る子どもたちの歓声が、周囲を和やかにする。子どもこそ宝である。

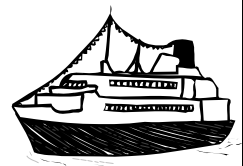


法律、規則、約束、常識
守る気がなければ…

私たちの生活の中には、いろいろな規則や約束事があります。法律のようにはっきりと明文化されたものもあり、社会的な常識から自然にでき、特にどこにも明記されていないものもあります。以前にこんなことを書きました。

(略) 初詣。長蛇の列にうんざり。「一年の計は元旦にあり」と思い並んでいると、人を押しのけながら目の前を両親と小学校低学年と思われる女の子が横切りました。「すみません」とか「ごめんなさい」とかの言葉があつて横切るならば「どうぞ」といって、「ほほえましい家族だ」とでも思ったでしょう。ところが無言で横切っていくのです。会釈もなく、堂々と横切ったのです。(略)

夏、十和田湖遊覧の船の中でのことです。最前列に座りました。男の子と女の子の兄弟、そして両親の4人の家族も一緒に乗船。しばらくすると2人の子どもが遊覧船の中をワイワイ言いながら走り出しました。船内に流れているガイドの声も聞きづらくなるほど。よほど注意をしようかと思っていると、ついに母親が2人の子どもに声をかけたのです。「少しは静かにしなさい。お父さんは疲れているの。眠れないでしょう。騒ぐのなら後ろの方へ行きなさい。」と。(略)



この二つの事例は、法律に違反していることではありません。社会生活を送っている以上、「ちょっと通らせてください」「静かに座っていようね。皆さんに迷惑だよ」ぐらい大人として、親として言えないものでしょうか。最近の日本は、非常識がまかり通り、日本は崩壊するのではと嘆く人も多くいます。

「見る気がなければ何も見えない。聞く気がなければ何も聞かない」という言葉があります。「守る気がなければ何も守れない」を追加したい気持ちです。大人たちよ！子どもたちに「ダメなものはダメ！」とはっきりと言おうではないか！